

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなぐ伝統 築こう未来

発行日：令和8年1月13日(火)

発行者：校長 吉岡 大司

「丙午(ひのえうま)」

校長 吉岡 大司

冬休みも終わり、令和8年が始まりました。明けましておめでとうございます。

さて、今年のお正月、ふと昔、母から習った十二支(じゅうにし)が頭に浮かび、口ずさんでみました。「子丑寅卯辰巳(ねーうしとらうーたつみー)」までは、順調でしたが、その先が思い出せず、「午未申酉戌亥(うまひつじさるとりいぬい)」とようやく最後まで言えました。皆さんは、すぐに言えたでしょうか。十二支は、昔の中国で年や時刻、方角を表すために考えられ、日本には暦とともに伝えられました。今年は「丙午(ひのえうま)」の年です。十二支は子・丑・寅に始まり、「午」は、7番目にあたります。この「午」という漢字は、動物の馬そのものを表したものではなく、覚えやすくするために動物が当てはめられたとも言われています。

十二支の順番には、大昔から語り継がれてきた神様のお話があります。

神様が「一月一日の朝に挨拶に来た12番目までの動物を、毎年交代でリーダーにする」と伝えると、動物たちはそれぞれ神様のもとを目指しました。

歩くのが遅いうしは、前日の夜から出発し、賢いねずみは、その背中に気づかれないように乗って一緒に向かいました。その結果、到着寸前でねずみが飛び出し、ねずみが1番、うしが、2番になったそうです。このお話には、馬についての続きもあります。足が速く力にも自信のあった馬は、「自分は一番になれるだろう」と考え、当日の朝に出発しました。途中までは勢いよく走っていましたが、「まだ余裕がある」と油断し、少し休んでしまったため、結果は、7番目になったと言われています。がっかりする馬に、神様はこう声をかけました。「7番目であっても、馬の役目はとても大切だ。人と力を合わせ、前へ前へと進む存在なのだから。」。その言葉どおり、馬は古くから人の暮らしを支え、荷物を運び、畑を耕し、時には人を乗せて遠くまで走るなど、黙々と力を尽くしてきました。そのため、馬は「前進する力」や「ねばり強さ」、そして、「人と共に歩む存在」の象徴とされてきました。速さや結果だけでなく、誰かのために力を尽くし続けることの大切さを、馬は、私たちに教えてくれているのかもしれません。

新しい年の始まりは、誰でも少し不安になったり、先が見えなくなったりするものです。

思うように進まないことや、立ち止まりたくなることもあるでしょう。そんなときこそ、馬のように、結果を急がず、一步一歩、前へ進み続けることが大切だと思います。

また、冬休み明けは、日没も早く、登校する日数が1・2年生は、51日、3年生は、48日と少ないため、「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われるよう、月日の流れを早く感じる時期です。生徒の皆さんには、次の学年を意識しながら、「四月からは、どんな先輩になりたいのか」を考え、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

そして、目標に向けて努力してきたことを一つずつ積み重ねていってください。

これから、ますます寒さが厳しくなります。体調管理をしっかり行い、毎日を元気に過ごしていきましょう。地域・保護者の皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。